

＜特集＞仙台港背後地

－土地区画整理事業の竣工－

東北唯一の国際拠点港湾に指定されている仙台塩釜港は、現在、仙台港区、塩釜港区、松島港区、石巻港区の4つの港区に分かれています。中でも仙台市に位置する仙台港（区）は、昭和39年3月の新産業都市指定に伴い、本県の臨海型工業開発の拠点として整備が進められてきました。

仙台港は、砂浜の続く当時の長浜海岸に現在のような航路を掘り込んで造られたもので、仙台港築港と併せて基幹工業用地・関連工業用地として臨港地区・背後地地区の開発が進められてきました。

仙台港は昭和46年7月に開港していますが、臨港地区は昭和49年度から昭和53年度まで県が土地区画整理事業を施行、当企業局において平成19年度までに分譲を終えています。背後地地区は平成3年度から県と仙台市が土地区画整理事業を共同施行し、今年3月に竣工となりました。

昭和39年の新産業都市指定から実に50年の年月を経ましたが、臨港地区・背後地地区エリア内にはこれまでに多くの工場や物流拠点、商業施設等が立地、仙台東部道路の2つのインターチェンジ（仙台港IC、仙台港北IC）により仙台空港や他の高速道路網へのアクセスも向上し、今後ますますの発展が期待されています。

－更なる賑わいの創出－

企業局では、これまで造成事業による臨港地区の造成・分譲のほか、地域整備事業として臨港地区内に貸オフィスや貸ホールを主体とした仙台港国際ビジネスサポートセンター（愛称：アクセル）の建設・運営を手掛けるとともに、背後地地区内では企業局用地を大型商業施設へ貸付け、仙台港地区の魅力向上に努め、国際拠点港湾にふさわしい賑わいの創出に取り組んできました。



仙台港周辺の状況



アクセル(上)と大型商業施設

今回の仙台港背後地土地区画整理事業竣工に伴い、土地区画整理事業で未処分となっていた保留地を企業局で引き受け、地域整備事業の一環として当該土地の貸付けを新たに実施することになりました。

—みなと仙台ゆめタウン土地活用事業—

東日本大震災での仙台港及び背後地地区の津波浸水被害は甚大でしたが、復旧・復興も進み、背後地地区（愛称：みなと仙台ゆめタウン）では、東北最大級の観覧席でイルカ・アシカショーが観られる「仙台うみの杜水族館」がこの7月1日にオープンし、多くの家族連れで賑わうなど、今後一層の発展が見込まれています。

「みなと仙台ゆめタウン土地活用事業」では、このようにますます魅力あふれる仙台港背後地地区に進出を検討している事業者の方々の要望に応え、背後地地区内の15区画29,636㎡を事業用の定期借地権設定等の方法により貸付け、当該地区への進出をお手伝いしていきます。現在、一般競争入札による貸付けの手続きを進めており、入札参加申し込みは既に締め切りましたが、今回の入札で貸付けに至らなかった土地については、今後、先着順にて売却等による活用を図っていく予定です。

みなと仙台ゆめタウン土地活用事業及びアクセルへの入居について、詳しくは企業局公営事業課企画調整班（電話 022-211-3414）へお問い合わせください。



仙台港背後地土地区画整理事業の竣工記念碑



みなと仙台ゆめタウン土地活用事業の貸付予定地（No.1～No.15までの15区画）

《シリーズ》東日本大震災からの教訓 第9回

東日本大震災の記憶の風化を防ぐため、当時の対応をメインに震災関連記事を連載していましたが、今回からは東日本大震災からの教訓を今後の施設整備等へ活かしていく取組みを紹介していきます。

第9回目は、企業局における新たなバックアップ体制の構築についてお送りします。

管路バックアップ機能の強化①

本県南部の七ヶ宿ダムを水源とする仙南・仙塩広域水道は、県南部地域から県中央部の仙台塩釜地域まで合わせて17市町に水道用水を供給しています。白石市にある南部山浄水場で浄水処理された水道用水を高区系・低区系と呼ぶ2系統の送水管路で受水市町へ送水しており、管路の最大口径は2,400mm、総延長は200kmにも及ぶ大規模な広域水道となっています。

東日本大震災以前の平成20年に、この2系統の送水管路のうち低区系送水管路上で漏水事故が発生しました。送水管路は、各系統とも単一方向の管路であることから、漏水箇所の下流側全域で断水が生じてしまいました。

これを機に仙南・仙塩広域水道の受水市町とともに危機管理検討会を設置し、管路バックアップ機能の強化策として高区系と低区系管路を連絡管で繋ぐことを検討していましたが、東日本大震災で再び大規模な断水が発生したことに伴い、平成24年度に正式に**連絡管整備事業の実施を決定**し、現在、工事を進めているところです。

予 定 地	(起点) 村田町足立地内～(終点) 岩沼市長岡地内
建 設 費	全体事業費 約90億円
管 路 延 長	約13.1km
計 画 送 水 量	83,800m ³ /日
管 路 口 径	φ800mm～φ1,000mm
敷 設 工 法	開削工法(一部推進工法)
スケジュール	平成24年度 基本設計
	平成25年度～ 測量調査、地質調査、詳細設計
	平成26年度～ 工事着手(平成31年度完成予定)
	平成32年度～ 供用開始

連絡管整備事業概要

連絡管を整備することによって、低区系管路で漏水事故が発生しても下流域には高区系管路から送水することが可能となります(下図参照)。また、将来的に見込まれる管路の大規模更新時にも、改めて迂回ルートを構築しなくても断水せずに工事を行うことが可能となります。



連絡管整備前(左)と連絡管整備後
連絡管の整備により高区系管路から低区系管路へ送水が可能に

「恵水不盡 東日本大震災からの復旧・復興に向けた宮城県企業局の対応と取組」を公開しています。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kigyo/kigyokyokuhigashinihondaishinsai.html>

企業局のTOPICS

—南部山浄水場

子ども探検隊—

平成27年6月6日に「南部山浄水場子ども探検隊」を開催しました。この探検隊は、6月1日から6月7日までの水道週間に合わせて、子どもたちに水道水への理解を深めてもらうために、「おいしい水道水をつくる秘密を探る」と題して開催しました。

普段見ることのできない大きな薬品貯蔵タンクや配管が通る地下管廊などを探検し、その中でも子どもたちが一番興味を示したのは、ろ過砂の洗浄の様子で、洗浄水が勢いよく流れ出す光景に驚きの声が上がっていました。



ろ過砂洗浄の様子

次回（8月19日開催）の「南部山浄水場子ども探検隊」の参加者を8月17日まで募集しています。

探検隊の詳細及び参加申込みは下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

仙南・仙塩広域水道事務所 電話 0224-25-8890

< 編集後記 >

本誌メビウスをご覧くださいありがとうございます。今号でメビウスは創刊2周年を迎えました。今号から編集を担当することになり、慣れない作業に苦戦しております。

未熟な編集担当ですが、より有意義な情報を皆様にご提供できればと思います。ご意見等をお寄せいただければ幸いです。

—利き水会—

県内2か所のショッピングセンターで「利き水会」を実施しました。

これは、市販のミネラルウォーターと水道水を飲み比べてもらい、水道水は意外に美味しいということをお知らせしようというものです。

仙南・仙塩広域水道事務所では大河原町・白石市と共催で6月1日に大河原町の「フォルテ」で実施し、参加者161名のうち53名の方から水道水の方が美味しいという回答をいただきました。

大崎広域水道事務所では7月9日に大崎市の「イオン古川店」で実施し、参加者108名のうち48名の方から水道水の方が美味しいという回答をいただきました。

利き水会の会場の隣で浄水処理過程の実験を行ったり、各自治体のPRキャラクターの参加もあり、たくさんの方に参加していただきました。

今後もこのような取り組みを継続し、水道水に対する理解を深めてもらうよう努めていきます。



ゆるキャラも登場(フォルテ(左)とイオン古川店)

【第9号編集担当・お問い合わせ先】
公営事業課 予算・出納班 谷地向 祥果
電話：022-211-3415

E-mail：kigyo@pref.miyagi.jp

【企業局の情報はこちら】

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/16.html>

【メビウスのバックナンバーはこちら】

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suido-kanri/mebiusu.html>